

公開
資料3

第 3 9 8 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和8年3月23日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
1. 協力学術研究団体関係						
提案1	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	4	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本ESD学会 ※令和8年3月23日現在2,213団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条
2. 国際関係						
提案2	令和8年度代表派遣について、実施計画を変更すること	会長	5	令和8年度代表派遣について、実施計画の変更をする必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第21条
3. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和8年度第2四半期、第1四半期（追加）】						
提案3	学術フォーラム「新しい地熱技術開発と地熱開発、温泉、環境の共生に向けて」の開催について	総合工学委員会委員長	6	主催：日本学術会議 日時：令和8年7月8日（水）開催時刻調整中 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案4	学術フォーラム「カーボンニュートラルに向けたエネルギー供給側と需要側の連携」の開催について	環境学委員会委員長、総合工学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会委員長	8	主催：日本学術会議 日時：令和8年7月15日（水）開催時刻調整中 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案5	学術フォーラム「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正—男女共同参画基本計画の実装とジェンダー主流化」の開催について	科学者委員会委員長	10	主催：日本学術会議 日時：令和8年8月1日（土）13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案6	学術フォーラム「“こどもまんなか社会”ってなんだろう」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長、心理学・教育学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	14	主催：日本学術会議 日時：令和8年8月28日（金）14:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第一部、第二部、第三部承認	—	内規別表第2

提案7	学術フォーラム 「サーキュラーエコノミーの実践のための社会課題と学術課題」の開催について	材料工学委員会委員長、環境学委員会委員長、総合工学委員会委員長	17	主催：日本学術会議 日時：令和8年9月18日（水）13:00～17:40 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム 「大学は多様性とどう向き合うか：イノベーション、人権、インターセクショナルリティ」	第一部部長	19	主催：第一部総合ジェンダー分科会 日時：令和8年5月10日（日）13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム 「健康な土壌から健康な社会を！—SDGsへの貢献」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	22	主催：農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同IUSS分科会、農学委員会植物保護科学分科会 日時：令和8年7月25日（土）13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム 「第34回脳の世紀シンポジウム」の開催について	基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	25	主催：基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、基礎医学委員会 日時：令和8年9月26日（土）10:00～16:00 又は 令和8年10月24日（土）10:00～16:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木） ※第二部承認	—	内規別表第2

4. その他のシンポジウム等

提案11	公開シンポジウム 「我が国の創薬力強化に向けた産学官の統合戦略と人材育成」の開催について	薬学委員会委員長	31	主催：薬学委員会基礎系薬学分科会 日時：令和8年5月8日（金）13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム 「生物知性と人工知性の融合が生み出す未来」の開催について	基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	33	主催：基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会 日時：令和8年5月9日（土）14:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム 「レジリエンスを高める生体医工学の最前線」の開催について	基礎医学委員会委員長、機械工学委員会委員長、電気電子工学委員会委員長、材料工学委員会委員長	36	主催：機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会、公益社団法人日本生体医工学会 日時：令和8年6月6日（土）13:00～14:30 場所：トークネットホール仙台（宮城県仙台市青葉区） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム 「研究者養成から社会実装人材へ — 博士教育の再設計」の開催について	第三部理工系博士人材育成分科会委員長	39	主催：第三部理工系博士人材育成分科会 日時：令和8年6月10日（水）13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2

提案15	公開シンポジウム 「法律学からみた心理学・心理学からみた法律学」の開催について	心理学・教育学 委員会委員長、 法学委員会委員長	41	主催：法学委員会・心理学・教育学委員会 会合同法と心理学分科会 共催：日本心理学会、法と心理学会 日時：令和8年9月4日（金）～9月6日（日）のいずれかで100分程度 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
------	--	--------------------------------	----	--	---	--------

5. 後援

提案16	国内会議の後援をすること	会長	43	以下について、講演の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨回答があったので、後援することとしたい。 ・生物科学学会連合シンポジウム「高校生物における中核的概念とは？—各分野の専門家が考えるこれからの生物教育—」 ・JpGU-AGU Joint Meeting 2026 ・第15回JACI/GSCシンポジウム	—	後援名義使用承認基準3（2）ウ
------	--------------	----	----	--	---	-----------------

件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は第196回総会期間中に開催予定。					44

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	<p>日本 ESD 学会 (https://isesd.xsrv.jp/)</p>	<p>本団体は、ESD（持続可能な開発のための教育）の理論的・実践的研究および ESD 実践の深化・発展を図ることをもって、持続可能な社会の構築に資することを目的とする。</p>

令和 8 年度代表派遣実施計画の変更等について

以下のとおり、令和8年度代表派遣実施計画(第 397 回幹事会(令和8年2月 27 日)にて承認済)の変更等を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	G サイエンス学術 会議 2026	5月 17 日 ～ 5月 19 日	パリ (フランス)	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会	・代表派遣の取りやめ
				関谷 毅 第三部会員 (大阪大学産業科学研究所教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

日本学術会議主催学術フォーラム
「新しい地熱技術開発と地熱開発、温泉、環境の共生に向けて」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：総合工学委員会
3. 日 時：令和8（2026）年7月8日（水）開催時刻調整中
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

再生可能エネルギーは地熱、太陽光、風力、バイオマス、水力が挙げられる。この中で地熱は火山国である日本において期待が高い。地熱エネルギーは古くから温泉として利用されてきたが、一方地熱発電は、1966年に松川地熱発電所が運開され、新しい地熱利用として開発が進められ、1990年代後半まで順調に伸びていった。しかし温泉事業との競合、自然公園との共生などが課題となり、その後は伸び悩んでいる。2011年以降は再生可能エネルギーの拡大が国の政策の重要課題となり、地熱は2030年度の導入目標を1.5GWとした。この目標実現の一環として、在来型に加え非在来型地熱資源開発のための新しい技術開発を開始し、さらに課題となっていた地熱開発と温泉、環境の共生の実践が進められている。ここでは、新しい地熱技術開発と地熱開発と温泉、環境の共生の成功事例を紹介し、日本の地熱エネルギー利用拡大の現状を一般社会に理解していただくことを目的とする。

7. 次 第：

コーディネーター

大久保 泰邦（日本学術会議連携会員／地熱技術開発株式会社探査部研究主幹）

演題・演者等

講演「今後の地熱開発政策について」

目久美 大樹（経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部政策課係長）

講演「地域共生型地熱利活用に向けた環境省の取り組みについて」

松岡 法明（環境省自然環境局自然環境整備課温泉地保護利用推進室温泉・地熱資源保護利用専門官）

講演「温泉事業と地熱開発との共生に向けて」

佐藤 好億（一般社団法人日本温泉協会副会長）

講演「土湯温泉の成功事例」

加藤 貴之（株式会社元気アップつちゆ代表取締役 CEO）

講演「秋田県湯沢市のかたつむり山地熱開発プロジェクトの紹介」

後藤 弘樹（出光興産株式会社資源部（兼）小安地熱株式会社取締役）

講演「岩手県八幡平市の地熱への取組紹介」

佐々木 靖人（八幡平市市民部まちづくり推進課エネルギー推進係長）

講演「地域コミュニティと共創する熱エネルギー利用システム」

藤岡 恵子（日本学術会議連携会員（特任）／株式会社ファンクショナル・フル
イット最高顧問）

講演「地熱開発、温泉、環境の共生における課題と展望」

窪田 ひろみ（一般財団法人電力中央研究所研究推進マネージャー・上席研究員）

講演「JOGMEC の地熱開発への取り組み」

西川 信康（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構再生可能エネルギー事業
本部特別参与）

閉会挨拶

岩城 智香子（日本学術会議連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監／東京
科学大学特任教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「カーボンニュートラルに向けたエネルギー供給側と需要側の連携」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：環境学委員会、総合工学委員会、土木工学・建築学委員会、
循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する
検討委員会
3. 日 時：令和 8（2026）年 7 月 15 日（水）開催時間調整中
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同カーボンニュートラル都市分科会および総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会での議論を基に、従来学術分野の違い等から別に研究されていたエネルギー供給と需要の研究開発動向および両者の連携の必要性、特に数十年先の両者の姿について意見交換し、今後の課題や研究連携の可能性について議論する。

7. 次 第：

コーディネーター

下田 吉之（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科教授）

演題・演者等

趣旨説明、問題提起

下田 吉之（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科教授）

講演 電力システムの将来(核融合)

山田 弘司（核融合科学研究所長）

講演 燃料(水素・合成燃料)

矢部 彰（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合
開発機構技術戦略研究センターフェロー）

講演 将来の都市・建築とデマンドレスポンス

岩船 由美子（日本学術会議連携会員／東京大学生産技術研究所教授）

講演 ZEB, ZEH の動向とエネルギー供給システムとの関係

田辺 新一（日本学術会議連携会員／早稲田大学創造理工学部建築学科教授）

総合討論

上記講演者

大岡 龍三（日本学術会議連携会員／東京大学生産技術研究所教授）

岩城 智香子（日本学術会議連携会員／株式会社東芝総合研究所首席技監／
東京科学大学特任教授）

総括、あいさつ

（調整中）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正－男女共同参画基本計画
の実装とジェンダー主流化」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：科学者委員会
3. 日 時：令和8（2026）年8月1日（土）13:00～17:30
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

2025年は、日本が女性差別撤廃条約（CEDAW）を批准して40年、北京女性会議から30年、また男女共同参画社会基本法成立から約四半世紀という節目の年であった。

しかしながら、日本のジェンダー平等の達成度は、世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数において148か国中118位（2025年）と、長期にわたり低迷している（2006年の開始時からG7の中で常に最下位）。

日本学術会議は、これまで複数回にわたり男女共同参画・ジェンダー平等に関する提言を行ってきたが、近年の社会状況の変化や第6次男女共同参画基本計画の策定を見据え、改めて「なぜジェンダー平等政策が実効的に機能してこなかったのか」「何が構造的障壁となっているのか」を学術的に検証し、実効性ある改善策を提示する必要がある。

本フォーラムは、2025年10月に公表した提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正を目指して－2030年に向けた課題－」のフォローアップとして、

- ・ ジェンダー主流化の具体的実装
- ・ 男女共同参画基本計画の実効性確保
- ・ 学術界・社会における差別・暴力・人材育成の課題
- ・ 学術振興とジェンダー平等の相互強化

について、政策・学術・現場の知見を交差させて議論し、2030年を見据えた具体的なアクションにつなげることを目的とする。

同提言の作成には、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第6次男女共同参画基本計画小分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会など、第一部から第三部までのすべての学問分野を代表する委員が関わったため、登壇者の専門分野も多様である。このような分野横断的テーマは、学術フォーラムの企画に

ふさわしいものと思料する。

7. 次 第：

コーディネーター

森 初果（日本学術会議第三部会員／東京大学物性研究所教授）

玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分
野血管生物分子病理学教室教授）

三尾 祐子（日本学術会議第一部会員／慶応義塾大学名誉教授・東京外国語大学名
誉教授）

島岡 まな（日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授）

演題・演者等（予定、交渉中のものも含む。）

開会挨拶

高橋 裕子（日本学術会議第一部会員／津田塾大学学長・教授）

来賓挨拶

岡田 恵子（内閣府男女共同参画局長）（調整中）

趣旨説明

島岡 まな（日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授）

第 I 部：現状と問題提起

司 会

三尾 祐子（日本学術会議第一部会員／慶応義塾大学名誉教授・東京外国語大学名
誉教授）

問題提起 1 「なぜ 5 次にわたる男女共同参画基本計画は十分機能してこなかったの
か（提言 1 & 2 関係）」

皆川 満寿美（日本学術会議連携会員／中央学院大学現代教養学部准教授）

問題提起 2 「ジェンダーに基づく差別・暴力の現状（提言 3 関係）」

島岡 まな（日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授）

問題提起 3 「学術界の人材育成におけるジェンダー不平等の現状（提言 4 関係）」

河野 銀子（日本学術会議連携会員／九州大学男女共同参画推進室教授）

問題提起 4 「学術振興とジェンダー平等の課題（または、デジタル社会・イノベー

ションとジェンダー) (提言5関係)」

渡辺 美代子 (日本学術会議連携会員/日本大学常務理事/特定非営利活動法人
ウッドデッキ代表理事)

休憩 10 分 (14 時 30 分~14 時 40 分)

第Ⅱ部：課題解決のために (問題提起への応答・改善提案)

司 会

樋田 京子 (日本学術会議第二部会員/北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分
野血管生物分子病理学教室教授)

改善提案1 「ジェンダー主流化と男女共同参画基本計画の実効性を取り戻すため
に」

大崎 麻子 (関西学院大学客員教授、内閣府男女共同参画会議第6次基本計画策定
専門調査会委員、国連女性の地位委員会日本代表) (調整中)

応答1

未 定 (内閣府男女共同参画局担当者 (調整中))

改善提案2 「ジェンダーに基づく差別・暴力根絶のために何ができるのか—包括
的反差別法の可能性」

木村 草太 (日本学術会議連携会員/東京都立大学政治学研究科・法学部教授)

応答2

未 定 (法務省担当者 (調整中))

改善提案3 「学術界の人材育成を平等・公正なものとするために—特に若手の人
材育成を中心に」

川口 慎介 (日本学術会議連携会員/国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境
部門上席研究員)

応答3

未 定 (文部科学省担当者 (調整中))

改善提案4 「性差医療の可能性」

名越 澄子 (日本学術会議連携会員/埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内
科客員教授)

応答4

未 定（経済産業省の担当者（交渉予定））

休憩 20 分

第Ⅲ部：パネルディスカッション

司 会

玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

パネリスト

林 香里（日本学術会議連携会員／東京大学理事・副学長／東京大学大学院情報学
環教授）

伊藤 公雄（日本学術会議連携会員／京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授）

中野 裕美（日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学シニア研究員・名誉教授）

その他（調整中）

閉会挨拶、総括コメント

森 初果（日本学術会議第三部会員／東京大学物性研究所教授）

8. 関係部の承認の有無：科学者委員会承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「“こどもまんなか社会”ってなんだろう」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：土木工学・建築学委員会、心理学・教育学委員会、
臨床医学委員会、健康・生活科学委員会
3. 日 時：令和8（2026）年8月28日（金）14:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

2023年4月、こども家庭庁が発足、同年5月にこども基本法が施行され、『こどもも大人も皆が幸せな生活を送ることのできる「こどもまんなか社会」の実現』を掲げて、子どもの総合的政策と体制の予算策定に向けて動き出している。しかしながら、OECD諸国と比較しても子どもの幸福度が著しく低いと評される日本の子どもが、健やかに過ごす上での社会的環境は良くなるどころか悪化するばかりである。その改善に向けては、経済的な支援に留まらず、精神面での人的支援がより重要であり、また子どもに直接関わる地域社会の意識の変革、その生活空間の改変も必要となってくる。

子どもの成育環境改善に向けては、分野横断的に、且つ、空間・時間・方法・コミュニティの側面から多角的に捉えていくことが必要である。日本学術会議土木工学・建築学委員会・心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同「子どもの成育環境分科会」は、分野横断的に15年の長期にわたり、子どもの成育環境について検討を続け、空間、時間、方法、コミュニティと4つの課題について繰り返し提言・報告をおこなってきた。

特に、ここ数十年で子どもの捉え方や支援の仕方の変容は目まぐるしい。こども家庭庁がスタートし「こどもまんなか社会」のスローガンは他分野でも少しずつ浸透しつつあるが、未だ子ども関係の業界のみにとどまっている印象もある。「少子化なのになぜ、社会全体で子どもにそこまでやらなければいけないのか」「子どもだけを真ん中にして解決しないのでは？」「子どもの最善の利益ってなに？」というモヤモヤを抱きながら“子どもを真ん中”にする意味、手法を模索している。

そこで本フォーラムでは、第1部で現代社会において変容する子どもと子どもを取り巻く環境について、各学問分野の最新の研究事例を用い多分野領域から子どもの健全な成育環境について捉える。第2部では、こども家庭庁の現在の取組みを踏まえ、本来の「こどもまんなか社会」の真髄に迫る。

7. 次 第：

コーディネーター

湯川 嘉津美（日本学術会議連携会員／上智大学名誉教授）

安部 芳絵（日本学術会議連携会員（特任）／工学院大学教育推進機構教職課程科教授）

演題・演者等

開会挨拶

高橋 尚人（日本学術会議第二部会員／東京大学医学部附属病院小児・新生児集中治療部教授）

趣旨説明

三輪 律江（日本学術会議連携会員／横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授）

第一部

報告 「AI 共生時代に必要となるヒトの脳とこころの発達支援」

明和 政子（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授）

報告 「Special health care needs のある子どもときょうだい児を含む家族全体のウェルビーイング」

浅野 みどり（日本学術会議連携会員／修文大学看護学部小児看護学教授／名古屋大学名誉教授）

報告 「不登校、社会的養護等の子どもたちの居場所」

石崎 優子（日本学術会議連携会員／関西医科大学小児科学講座診療教授）

報告 「子どもたちの過ごす学校、学習環境 と地域社会」

齋尾 直子（日本学術会議連携会員／東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授）

第二部 ディスカッション「“こどもまんなか社会” ってなんだろう」

「こども家庭庁の取組み」

藤原 朋子（こども家庭庁官房長）

まとめと閉会挨拶

仙田 満（東京工業大学名誉教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部、第二部、第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線は、日本学術会議関係者)

日本学術会議主催学術フォーラム
「サーキュラーエコノミーの実践のための社会課題と学術課題」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：材料工学委員会、環境学委員会、総合工学委員会
3. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 18 日（金）13:00～17:40
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会が今期(第 26 期)にまとめた「意思の表出(見解)」を受けて、資源循環経済(サーキュラーエコノミー)を実装化するには、循環に適したモノづくり、循環することによる弊害の回避技術、製品を再生する大小さまざまな再生ループ技術の開発の一方で、環境・社会・経済的要因が最適化されるようしくみづくりが欠かせない。実装化へのアプローチにおいて遭遇する社会課題および学術課題を、産官学のそれぞれの立場から拾い上げ、これらを克服するためのアプローチについて、現在発展目覚ましいデータサイエンスの手法も含めて紹介し、非資源国である我が国の持続的資源供給戦略を、立場を超えて議論する。

7. 次 第：

コーディネーター

松八重 一代（日本学術会議連携会員／東北大学大学院環境科学研究科教授）

演題・演者等

司 会

岡部 徹（日本学術会議連携会員／東京大学・副学長）

開会挨拶

笹木 圭子（日本学術会議第三部会員／九州大学・名誉教授／早稲田大学理工学術院・教授）

講演 「サーキュラーエコノミーを後押しする市場の設計(仮)」

青木 玲子(一橋大学・名誉教授／オークランド大学・教授)

講演 「日本製鉄における数理・データサイエンス・AI 活用事例(仮)」

伊藤 邦春 (日本製鉄株式会社 技術開発本部プロセス研究所インテリジェント
アルゴリズム研究センター・所長)

講演 「マルチメタルスマルティングの実践と課題(仮)」

福田 健作 (DOWA メタルマイン株式会社・代表取締役社長)

講演 「エコシステム (仮) 」

梅田 靖 (日本学術会議連携会員／東京大学大学院工学系研究科・教授)

講演 「未定」

(調整中)

閉会挨拶

森田 一樹 (日本学術会議第三部会員／東京大学大学院工学系研究科マテリアル
工学専攻教授趣旨説明)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線は、日本学術会議関係者)

公開シンポジウム

「大学は多様性とどう向き合うか：

イノベーション、人権、インターセクショナルリティ」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 5 月 10 日（日）13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

これまで大学では教員・学生に女性を増やす取組を進めてきたが、改めてなぜそれが必要であったかと考えると、構成員の多様性がイノベーション（科学の発展）をもたらすという観点から推進されてきたといえる。とりわけ理系に女性が少ないことが問題視され、政府は科学技術・イノベーション政策の観点から、理系学部で女性を増やす取組を実施した大学に補助金を支給してきた。その状況下で、大学側は、理系のみならず、人文・社会科学系を含む全学的な施策として女性研究者支援を講じる場所が多かったといえる。

また、「多様性がイノベーションにつながる」という論理は、女性のみならず、あらゆるマイノリティ属性についても当てはまる。外国人、地方出身者、性的マイノリティ、両親が大卒ではない者、障がいを抱える者など、大学は多様な構成員を抱えるが、女性以外の属性とイノベーションとの関係についての議論は低調である。

他方、大学における多様性は、イノベーションのためという有用性論からだけでなく、そもそも大学は人権保障・差別禁止を推進する社会的義務があるという観点から取り組まれてきた。日本の大学はこれまで日本人、男性、シスジェンダー、異性愛、健常者を暗黙のうちに標準なものとして諸制度を構築してきたため、この標準とは異なる属性を持つ構成員の存在は不可視化される傾向にあった。現在、多様性が推進される中、有用性論のみに引きずられてしまうと、見失ってしまう問題があるのではないか。それに大学自身が気付いていくためには、標準とは異なる属性を持つ構成員がどのような問題に直面している

のかを共有し、それを解消することがなぜ大学にとっての責任なのかを議論する必要がある。

女性に対する取組は比較的蓄積が多く、ジェンダーに加えて他の被差別属性が交差する時の特有の問題についても議論が深められつつある。一方、様々なマイノリティ属性は時に交差し、複合的な差別をもたらすため、多様性促進にはインターセクショナル리티の視点が不可欠である。そこで、本シンポジウムは第一部総合ジェンダー分科会を主として企画し、関連する諸分科会の協力の下に議論を行う。

9. 次 第:

総合司会：島岡 まな（日本学術会議第一部会員／大阪大学大学院法学研究科教授）

13:00 開会挨拶 芳賀 満（日本学術会議第一部会員／東北大学高度教養教育・学生支援機構教授）

13:05 趣旨説明 後藤 弘子（日本学術会議連携会員（特任）／千葉大学理事・副学長）

13:10～14:10 第1部 基調講演

司会 臼井 恵美子（日本学術会議第一部会員／一橋大学経済研究所教授）

講演者 岩渕 功一（シドニー工科大学名誉客員教授）

講演タイトル <多様性>を切り拓く：根源的課題を問いつける

14:10～15:10 第2部 学長が語る大学の多様性

司会 臼井 恵美子（日本学術会議第一部会員／一橋大学経済研究所教授）

モデレーター 高橋 裕子（日本学術会議第一部会員／津田塾大学学長・教授）

登壇者 ダイアナ・コー（Diana Khor）（法政大学総長）

喜納 育江（琉球大学学長）

15:10～15:25 休憩

15:25～16:55 第3部 パネルディスカッション

司会 三浦 まり（日本学術会議連携会員／上智大学法学部教授）

登壇者 岩渕 功一、ダイアナ・コー 喜納 育江

ディスカッサント 板垣 竜太（同志社大学教授）

神谷 悠一（日本学術会議連携会員（特任）／LGBT法連合会理事・事務局長）

窪田 幸子（日本学術会議連携会員／芦屋大学学長）

申 恵丰（青山学院大学教授）

16:55 閉会挨拶 三尾 裕子（日本学術会議第一部会員／慶應義塾大学名誉教授）

17:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「健康な土壌から健康な社会を！—SDGs への貢献」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会、農学委員会植物保護科学分科会
2. 共 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会、一般社団法人日本土壌肥料学会
3. 後 援：日本土壌微生物学会、日本ペドロロジー学会、一般社団法人日本土壌動物学会、公益社団法人農業農村工学会、日本第四紀学会、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人日本森林学会、土壌物理学学会、日本農作業学会、公益社団法人環境科学会、一般社団法人日本作物学会、根研究学会、森林立地学会、日本沙漠学会、日本腐植物質学会、日本熱帯生態学会、日本熱帯農業学会、一般社団法人日本農学会（すべて予定）
4. 日 時：令和 8（2026）年 7 月 25 日（土）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

2025 年 7 月 26 日に開催した公開シンポジウム「Soil Health とは？ 土壌の健康の理解・維持向上・共有」では、1) 土壌の健康は、人間、家畜、環境の健康が相互に依存する「ワンヘルス」や「エコヘルス」のアプローチにおいて最も根本的な要素であり、「社会基盤」として地域・圃場ごとの評価と管理の実装が必要であること、2) 土壌の健康を支えるメカニズムを指標化し可視化するための現場計測手法の開発が必要であること、3) 土壌の健康を社会全体で共有し行動へつなげるための教育と倫理制度の実装が必要であること、を明らかにした。

この結論に基づき、土壌科学分科会、IUSS 分科会、植物保護科学分科会では合同で具体的な活動について検討し、意思の表出の「報告」として「Soil Health（土壌の健康）：国民的理解と持続可能な管理のイノベーションの推進」を発出することとしてい

る。その中では、土壌の健康は農業技術への貢献だけではなく生態系サービスの基礎であり、SDGs に直接・間接に貢献する自然資本であること、その維持向上のためには適正な土地利用を図り、土壌の健康の監視と管理の技術と実践方法の開発が必要であること、そしてその意義の社会への発信を強化するためには、教育の在り方を改善し、研究者と技術者と市民の間で協働する必要があること、さらに様々な土壌関連の法律をつなぐ土壌の健康基本法の策定が望ましいことを述べることにしている。

本シンポジウムでは、これらの要点について話題を提供し、広く一般から意見を伺って、今後の具体的活動計画の基礎としたい。

9. 次 第：

司会：川東 正幸（日本学術会議連携会員／東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域教授）

13：00 開会の挨拶

信濃 卓郎（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院農学研究院教授）

13：10 はじめに：「土壌の健康と SDGs」

波多野 隆介（日本学術会議連携会員／北海道大学名誉教授）

13：25 「自然資本としての土壌—地域レベルの土地利用の最適化」

藤井 一至（日本学術会議連携会員／福島国際研究教育機構土壌ホメオスタシス研究ユニットユニットリーダー）

13：45 「土壌の健康をチェックする技術開発」

矢内 純太（日本学術会議連携会員（特任）／京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

14：05 「環境再生型農業技術のイノベーションの推進（ミクロからのアプローチ）」

竹山 春子（日本学術会議第二部会員／早稲田大学理工学術院教授）

14：25 「環境再生型農業技術のイノベーションの推進（マクロからのアプローチ）」

当真 要（日本学術会議連携会員（特任）／北海道大学大学院農学研究院教授）

14：45 「教育研究機関における発信力の向上」

森 圭子（日本土壌肥料学会土壌教育委員会委員長/埼玉県立川の博物館学芸グループリーダー）

15：05 「土壌の健康基本法（土壌の健康モニタリング法）」

川嶋 四郎（日本学術会議第一部会員／同志社大学法学部法律学科教授）

15：25～15：40 休憩

テーマ「地域の土壌の健康を向上し SDGs を達成するリビングラボを成功させるために」

座長：波多野 隆介（日本学術会議連携会員／北海道大学名誉教授）

犬伏 和之（日本学術会議連携会員／東京農業大学応用生物科学部農芸化学科教授）

15：40 趣旨説明

波多野 隆介（日本学術会議連携会員／北海道大学名誉教授）

テーマへのコメント

15：45 重金属類汚染対策の観点から

山口 紀子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門化学物質リスク研究領域グループ長）

15：55 病虫害防除の観点から

渡辺 京子（日本学術会議第二部会員／玉川大学農学部教授）

16：05 「リボンラボという考え方：土壌の健康を社会で育てる仕組みについて」

若林 正吉（日本土壌肥料学会 9 部門副部門長／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門主任研究員）

16：15 登壇者によるパネルディスカッション

16：50 閉会の挨拶

犬伏 和之（日本学術会議連携会員／東京農業大学応用生物科学部農芸化学科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「第 34 回脳の世紀シンポジウム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、基礎医学委員会
2. 共 催：特定非営利活動法人脳の世紀推進会議、公益財団法人ブレインサイエンス振興財団、国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター
3. 後 援：日本脳科学関連学会連合（協賛）
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 26 日（土）10：00 ～ 16：00
又は 令和 8（2026）年 10 月 24 日（土）10：00 ～ 16：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（オンデマンド配信を予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

「脳の世紀シンポジウム」は特定非営利活動法人脳の世紀推進会議がその発足の 1993 年から行ってきたキャンペーン活動の 1 つで、脳科学の重要性を広く社会の各方面にご理解いただくために、毎年異なるテーマを決めて継続して開催している。

本シンポジウムは特別講演のほか、脳を知る、脳を育む、脳を守る、脳を創る、の 4 つの領域からの講演を行い、多彩なアプローチによる脳科学分野の最先端の研究成果と問題点を報告し、活発な議論を通じて更に理解を深めていただくことを目的に開催する。

9. 次 第：

テーマ：「脳と生成 AI」

10:00 開会挨拶

水澤 英洋（脳の世紀推進会議理事長／国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター名誉理事長）

10:10 特別講演

座長：

- 川人 光男 (株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 脳情報通信総合研究所所長／脳の世紀推進会議理事)
- 演者：
- 11:15 甘利 俊一 (帝京大学先端総合研究機構特任教授)
「脳を知る」分野講演 「LLM と失語症患者の相似」
- 座長：
- 加藤 忠史 (日本学術会議連携会員／順天堂大学医学部精神医学講座主任教授／脳の世紀推進会議理事)
- 演者：
- 渡部 喬光 (東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構教授)
休憩 (65 分) (11 : 55～13 : 00)
- (ビデオレター：高校生時に世界脳週間イベント、あるいは脳科学オリンピックに参加した体験記を放映)
- 13:00 「脳を守る」分野講演 「医療を守るではなく、社会を守る」
- 座長：
- 高橋 良輔 (日本学術会議第二部会員／京都大学学術研究展開センター (KURA) 特定教授／生命・医薬系部門部門長)
- 演者：
- 村上 明子 (損害保険ジャパン株式会社執行役員 Chief Data Officer データドリブン経営推進部長)
- 13:40 「脳を創る」分野講演 「生成モデルを用いた脳統一理論」
- 座長：
- 藤山 文乃 (日本学術会議連携会員／北海道大学大学院医学研究院組織細胞教室教授／脳の世紀推進会議理事)
- 演者：
- 銅谷 賢治 (日本学術会議連携会員／沖縄科学技術大学院大学神経計算ユニット教授)
- 14:20 「脳を育む」分野講演 「認知発達ロボティクス」
- 座長：
- 林 朗子 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター多階層精神疾患研究チームチームリーダー)
- 演者：
- 長井 志江 (日本学術会議連携会員／東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構特任教授)
休憩 (10 分) (15 : 00～15 : 10)
- 15:10 パネルディスカッション

座長：

伊佐 正（日本学術会議連携会員／自然科学研究機構生理学研究所所長
／京都大学大学院医学研究科高次脳科学講座神経生物学分野
教授／脳の世紀推進会議副理事長）

柚崎 通介（日本学術会議第二部会員／慶應義塾大学 WPI-Bio 2Q 特任教
授）

パネリスト：座長・講演者全員及び脳の世紀推進会議役員

15:50 閉会挨拶

大隅 典子（日本学術会議連携会員／東北大学経営戦略本部アドバイザー・大学院医学系研究科教授／独立行政法人日本学術振興
会理事／脳の世紀推進会議副理事長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和8年度第2半期】総括表

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和8年度第2四半期】 5件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案3	「新しい地熱技術開発と地熱開発、温泉、環境の共生に向けて」 (企画：総合工学委員会)	令和8年7月8日(水)時間調整中	日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)	要	要
2	提案4	「カーボンニュートラルに向けたエネルギー供給側と需要側の連携」 (企画：環境学委員会、総合工学委員会、土木工学・建築学委員会、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会)	令和8年7月15日(水)時間調整中	日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)	要	要
3	提案5	「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正—男女共同参画基本計画の実装とジェンダー主流化」 (企画：科学者委員会)	令和8年8月1日(土)13:00~17:30	日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)	要	要
4	提案6	「“こどもまんなか社会”ってなんだろう」 (企画：土木工学・建築学委員会、心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会)	令和8年8月28日(金)14:00~17:00	日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)	要	要

5	提案7	「サーキュラーエコノミーの実践のための社会課題と学術課題」 (企画：材料工学委員会、環境学委員会、総合工学委員会)	令和8年9月18日(金)13:00～17:40	日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)	要	要
---	-----	--	-------------------------	--------------------	---	---

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

(1)各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回

(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和8年度第1四半期(追加)】 1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案8	「大学は多様性とどう向き合うか：イノベーション、人権、インターセクショナルリティ」 (主催：第一部総合ジェンダー分科会)	令和8年5月10日(日)13:00～17:00	日本学術会議講堂	不要	不要

○今回提案【令和8年度第2四半期】 2件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
2	提案9	「健康な土壌から健康な社会を！—SDGsへの貢献」 (主催：農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会、農学委員会植物保護科学分科会)	令和8年7月25日(土)13:00～17:00	日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)	不要	不要
3	提案10	「第34回脳の世紀シンポジウム」 (主催：基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会、基礎医学委員会)	令和8年9月26日(土)10:00～16:00 又は 令和8年10月24日(土)10:00～16:00	日本学術会議講堂(ハイブリッド開催)	不要	不要

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 5 件／土日 2 件/開催曜日未定 0 件） 全 7 件 残り：8 件程度

（内訳）※全件について、経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォー ラム	(土日)	1	1		
	(平日)	1	4		
	(開催曜日 未定)				
合計		2	5		

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む） 全 7 件 残り：25 件

（内訳）

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	2			
	第二部	1	2		
	第三部				
	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム（土日）		1	1		
合計		4	3		

公開シンポジウム
「我が国の創薬力強化に向けた産学官の統合戦略と人材育成」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会基礎系薬学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本薬学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年5月8日（金）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

我が国の創薬研究は、基礎科学の高い水準を背景に世界を先導してきたが、近年は医薬品開発の高度化・複雑化に伴い、産学官のより緊密な連携と戦略的な研究基盤の整備が不可欠となっている。特に、革新的医薬品の創出には、基礎研究から臨床応用に至るまでのシームレスな研究推進体制の構築と、それを担う高度な専門性と広い視野を兼ね備えた人材の育成が求められている。

本シンポジウムでは、文部科学省及び国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による創薬支援政策、製薬企業における研究開発の現状と産学連携への期待、大学・研究機関における創薬研究支援基盤及び博士人材育成の取組を俯瞰し、我が国の創薬力強化に向けた課題と将来展望について多角的に議論する。本シンポジウムを通じて、産学官の連携を更に深化させ、持続的な創薬イノベーションの創出と次世代を担う人材の育成に資する新たな方向性を示すことを目的とする。

9. 次 第：

13:30 開会挨拶

眞鍋 史乃（日本学術会議第二部会員／星薬科大学薬学部教授／東北大学大学院薬学研究科教授）

第1セッション「官からの取り組み」

- 13:40 『創薬力強化に向けた文部科学省の取組と今後の方向性 (仮)』
倉田 佳奈江 (文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長)
- 14:10 『革新的医薬品創出に向けたAMEDの取り組み』
浅野 武夫 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構推進役)
- 休憩 (10分)
- 第2セッション「学からの取り組みから企業連携へ」
- 14:50 『未来医療・共生社会創造人育成プロジェクト「BUTTOBE-NEXT」を通じた高度な薬学・生命科学博士人材育成への挑戦』
降幡 知己 (東京薬科大学薬学部創薬基盤科学教室教授)
- 15:20 『大阪大学薬学部の「研究型全6年制」薬学教育システムの現状と課題』
堤 康央 (日本学術会議連携会員／大阪大学大学院薬学研究科教授)
- 15:50 『生命創成探究センターにおける創薬研究支援 (仮題)』
加藤 晃一 (日本学術会議連携会員／自然科学研究機構生命創成探究センター教授)
- 16:20 『製薬会社の創薬研究所からの産学連携・協調への期待』
鳥澤 拓也 (中外製薬株式会社中外ライフサイエンスパーク横浜研究本部タンパク質科学研究部部長)
- 16:50 総合討論
総合司会
藤田 直也 (日本学術会議連携会員／公益財団法人がん研究会がん化学療法センター所長)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「生物知性と人工知性の融合が生み出す未来」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会
2. 共 催：日本脳科学関連学会連合、一般社団法人日本神経科学学会、一般社団法人日本神経化学会、一般社団法人日本神経回路学会、一般社団法人日本神経学会（全て予定）
3. 後 援：大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所
4. 日 時：令和8（2026）年5月9日（土）14：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

シリコン半導体に依存した従来型計算機は、消費電力の増大や微細化の転換点に直面しており、新たな性能向上パラダイムの確立が求められている。

一方、「宇宙で最も複雑なシステム」とも呼ばれる脳は、ノイジーな環境下においても極めて低消費エネルギーで高度かつ柔軟、自律的で自己組織的な知的処理を創発的に実現している。

しかし、その計算原理の統一的理解や計算資源としての実装方法は未だ確立されていない。

本シンポジウムでは、神経科学の知見・データをアルゴリズムへ昇華する「計算論的神経科学」、生体組織そのものをデバイス化する「脳オルガノイド」、そして脳の理解を支える「脳データベース」を基盤とした研究の第一人者が集い、「生物知性と人工知性をいかに融合するか」という問いを掘り下げる。

本取組では、計算論研究がその計算原理を定式化し、脳オルガノイド研究が検証と実装を担う。「脳データベース」は、当該拠点のみならず全国の関連研究者より得られたデータ・

理論を集約し世界に広く公開、多様な研究者や AI による脳の理解へのチャレンジを可能とする。

これらを統合することで、生物学的脳が本質的に備える自律性・自己組織性を内在した新たな計算素材を創出し、柔軟性・頑健性・超低消費エネルギーを兼ね備えた「真の脳型計算機」の構築と、脳計算原理の理解に基づく生物知性と人工知性の融合に向けたロードマップの提示を目指す。

9. 次 第：*一部変更される可能性があります。

◇総合司会

林 朗子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター多階層精神疾患研究チームチームリーダー）

14:00 開会挨拶

高橋 良輔（日本学術会議第二部会員／京都大学学術研究展開センター（KURA）特定教授／生命・医薬系部門部門長）

14:05 来賓挨拶

岡野 栄之（日本学術会議連携会員／脳科学関連学会連合代表、慶應義塾大学医学部教授・再生医療リサーチセンター長）

14:10 趣旨説明

和氣 弘明（名古屋大学大学院医学研究科機能形態学講座分子細胞学教授）

話題提供

◇座長

和氣 弘明（名古屋大学大学院医学研究科機能形態学講座分子細胞学教授）

花川 隆（日本学術会議連携会員／京都大学医学研究科脳統合イメージング分野教授）

14:25 『演題未定』

花川 隆（日本学術会議連携会員／京都大学医学研究科脳統合イメージング分野教授）

14:45 『演題未定』

磯村 拓哉（国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター脳型知能理論研究ユニットユニットリーダー）

15:05 『演題未定』

田中 沙織（奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科情報科学領域教授）

15:25 『演題未定』

林 拓也（国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センターチームディレクター）

休憩 (15 分) (15:45~16:00)

16:00 『演題未定』

池内 与志穂 (東京大学生産技術研究所教授)

総合討論

◇進行

和氣 弘明 (名古屋大学大学院医学研究科機能形態学講座分子細胞学教授)

16:20 パネリスト

5名の話題提供者

伊佐 正 (日本学術会議連携会員／自然科学研究機構生理学研究所所長
／京都大学大学院医学研究科高次脳科学講座神経生物学分野
教授)

林 朗子 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所脳神
経科学研究センター多階層精神疾患研究チームチームリー
ダ)

藤山 文乃 (日本学術会議連携会員／北海道大学大学院医学研究院組織
細胞教室教授)

村松 里衣子 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立精神・神経
医療研究センター神経研究所神薬理研究部部長)

山本 英明 (東北大学電気通信研究所准教授)

16:55 閉会挨拶

柚崎 通介 (日本学術会議第二部会員／慶應義塾大学 WPI-Bio 2Q 特任教
授)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「レジリエンスを高める生体医工学の最前線」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会、公益社団法人日本生体医工学会
2. 協 賛：一般社団法人日本人工臓器学会、一般社団法人日本再生医療学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人電子情報通信学会、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）、日本歯科器械工業協同組合、一般社団法人日本医療機器産業連合会（以上全て予定）
3. 日 時：令和8（2026）年6月6日（土）13：00～14：30
4. 場 所：トークネットホール仙台（宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園 4-1）
5. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

近年、生体医工学分野で「レジリエンス」という言葉を聞くようになって来た。これは、困難やストレス、逆境に直面しても回復・適応する力のことで、本来、生体が備えている重要な性質のひとつである。従来の生体医工学的治療やリハビリは、強力な介入により生体機能を代替・回復させるという発想が主であったが、近年、適切な刺激で生体のレジリエンスを引き出し、機能回復に向かわせるという発想が現れ始めている。本公開シンポジウムでは、このようなレジリエンスを高める生体医工学の最前線について、最新の事例を紹介して頂くとともに、生体からどのようにレジリエンスを引き出していく方法があり得るのか、それをどのように生体に適応していくのかなどについて討論し、これからの生体医工学の発展の方向を考えていく。

8. 次 第：

座長：松本 健郎（日本学術会議第三部会員／名古屋大学未来社会創造機構予防早期医療創成センター教授）

朔 啓太（国立研究開発法人国立循環器病研究センター循環動態制御部研究室長）

13 : 00～13 : 05

1) 開会挨拶・趣旨説明

松本 健郎 (日本学術会議第三部会員／名古屋大学未来社会創造機構予防早期医療創成センター教授)

13 : 05～13 : 10

2) 背景説明

革新的生体医工学の創成～ME 研究推進委員会からの提言

原口 亮 (兵庫県立大学大学院情報科学研究科教授)

13 : 10～14 : 10

3) レジリエンスを高める生体医工学研究事例紹介

(1) クローズドループ神経調節による運動機能回復

小野 弓絵 (明治大学理工学部教授)

(2) 血液凝固のレジリエンス～循環器系人工臓器治療の後天性 von Willebrand 症候群発症メカニズム

白石 泰之 (東北大学加齢医学研究所准教授)

(3) レジリエンスを高めるニューロモジュレーション

高橋 宏知 (東京大学大学院情報理工学系研究科教授)

(4) 膝関節レジリエンス向上を目指したインテリジェントインソールの開発

荻原 直道 (東京大学大学院理学系研究科教授)

14 : 10～14 : 25

4) 総合討論

テーマ：レジリエンスを高める生体医工学の最前線

パネリスト：

(1) 原口 亮 (兵庫県立大学大学院情報科学研究科教授)

(2) 小野 弓絵 (明治大学理工学部教授)

(3) 白石 泰之 (東北大学加齢医学研究所准教授)

(4) 高橋 宏知 (東京大学大学院情報理工学系研究科教授)

(5) 荻原 直道 (東京大学大学院理学系研究科教授)

14 : 25～14 : 30

5) 閉会挨拶

田中 真美 (日本学術会議第三部会員／東北大学大学院医工学研究科教授／副学長)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「研究者養成から社会実装人材へ — 博士教育の再設計」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部理工系博士人材育成分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年6月10日（水）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
大学院教育改革と博士人材のキャリア多様化が進む中、依然として残る「博士＝研究者」という固定観念を乗り越え、産学官が共有すべき博士人材像を明確にすることを目的とする。
大学・企業・政策関係者が一堂に会し、現在進められている大学院教育の現状を確認し、建設的対話を通じて社会から広く必要とされる高度専門人材育成の方向性を共有する。
9. 次 第：

総合司会：関根 千津（日本学術会議連携会員／合同会社 RiseWave 啓代表）

- 13:00 シンポジウム開催にあたって
沖 大幹（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院工学系研究科教授）
- 13:10 基調講演「（仮）大学院教育改革で目指す博士人材像」
石橋 晶（文部科学省高等教育局大学振興課長）
- 13:40 「（仮）大学院教育は、なぜ持続的な成長に必要なのか」
藤井 輝夫（東京大学総長）
- 14:10 「（仮）真の大学院教育改革が始まった。その成果と課題」

君塚 信夫（日本学術会議連携会員／九州大学大学院工学研究院応用化学部門
主幹教授）

14:40 「（仮）数学分野における大学院改革と成果」

小藺 英雄（日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院基幹理工学部教
授）

15:10 「（仮）知の高度専門人材はいかに社会と接続されるべきか」

加茂 倫明（株式会社 LabBase 代表取締役 CEO）

休憩（10分）（15：40～15：50）

総合討論（15：50～16：50）

ファシリテーター：堀 利栄（日本学術会議第三部会員／愛媛大学大学院理工学研究科教
授）

パネリスト：

調整中（講演者）

君塚 信夫（日本学術会議連携会員／九州大学大学院工学研究院応用化学部門主幹教授）

小藺 英雄（日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院基幹理工学部教授）

加茂 倫明（株式会社 LabBase 代表取締役 CEO）

16:50 閉会挨拶

奥村 幸子（日本学術会議第三部会員／日本女子大学理学部数物情報科学科教授）

17:00 終了

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「法律学からみた心理学・心理学からみた法律学」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会・心理学・教育学委員会合同法と心理学分科会
2. 共 催：日本心理学会、法と心理学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年9月4日（金）～9月6日（日）のいずれかで100分程度
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：あり

8. 開催趣旨：

法理論や法実務と心理学の関わりに関する研究は、既に長い歴史と蓄積を有しているが、その主たる対象は、目撃証言、司法面接、被害者支援、裁判員裁判など、主として刑事実体法や刑事手続法における諸問題に関するものが多かった。他方、この10年ほどの間において、商品取引、金融、消費者保護、高齢者保護などの民事実体法、民事手続法における諸問題についても、法と心理学の研究成果には注目すべきものが見られるようになった。このような発展の中で、今日、そもそも法律学が想定している「人間」、心理学が想定している「人間」とはどのようなものなのかが正面から問題とされている。

本シンポジウムは、日本心理学会、法と心理学会と日本学術会議法学委員会・心理学・教育学委員会合同法と心理学分科会との共催により、「法律学から見た心理学・心理学から見た法律学」をテーマとして、法と心理学の諸問題につき今日の到達点を議論し、併せて今後の発展を展望しようとするものである。具体的には、心理学の観点から見た法律学・法律家の判断の特質、高齢者支援における心理学の知見の活用、刑事司法における事実認定、起訴、誤起訴・誤判と認知バイアスとの関わり、取引における意思決定などの論点が議論の俎上に載せられる。

9. 次 第：

司会 笠井 修（日本学術会議連携会員／中央大学大学院法務研究科教授）

報告 各 20 分

仲 真紀子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所理事／立命館大学招聘研究教授／北海道大学名誉教授）

「心理学から見た法律学」

西 希代子（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院法務研究科教授）

「民事法学から見た心理学」

笹倉 香奈（日本学術会議連携会員／甲南大学法学部教授）

「刑事法学から見た心理学」

指定討論 各 10 分

川嶋 四郎氏（日本学術会議第一部会員／同志社大学法学部法律学科教授）

藤田 政博氏（関西大学社会学部心理学専攻教授）

豊崎 七絵氏（日本学術会議連携会員／九州大学大学院法学研究院教授）

質疑応答 30 分

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：なし

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 生物科学学会連合シンポジウム「高校生物における中核的概念とは？－各分野の専門家が考えるこれからの生物教育－」

主催：生物科学学会連合

期間：令和8年3月29日（日）

場所：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂・一条ホール

参加予定者数：約100名

申請者：生物科学学会連合 代表 東原 和成

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

2. JpGU-AGU Joint Meeting 2026

主催：公益社団法人日本地球惑星科学連合（JpGU）、
アメリカ地球物理学連合（AGU）

期間：令和8年5月24日（日）～5月29日（金）

場所：幕張メッセ（国際会議場及び国際展示場ホール7、8）（オンライン併用）

参加予定者数：約9,000名

申請者：公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 ウォリス・サイモン

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

3. 第15回 JACI/GSC シンポジウム

主催：公益社団法人新化学技術推進協会

期間：令和8年6月16日（火）～6月17日（水）

場所：一橋大学 一橋講堂（一部オンライン併用）

参加予定者数：約800名

申請者：公益社団法人新化学技術推進協会 会長 森川 宏平

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第399回幹事会	第196回総会期間中に開催予定	13:30から
第400回幹事会	令和8年5月29日(金)	13:30から
第401回幹事会	令和8年6月26日(金)	13:30から
第402回幹事会	令和8年7月17日(金)	13:30から
第403回幹事会	令和8年7月31日(金)	13:30から
第404回幹事会	令和8年8月21日(金)	13:30から
第405回幹事会	令和8年9月3日(木)	13:30から
第406回幹事会	令和8年9月18日(金)	13:30から

●総会

第196回総会	令和8年4月9日(木)～11日(土)
第197回総会	令和8年8月6日(木)～7日(金)